

北海道医療新聞

3月22日
2019年・2265号
毎週金曜日発行
年間購読料20,000円
(前納・税別)
発行所

株式会社北海道医療新聞社
〒060-0042
札幌市中央区大通西6丁目
(北海道医師会館)
TEL 011(221)7777
www.medim.co.jp

導入費用抑え業務効率化

健診システム 大部分を自動入力

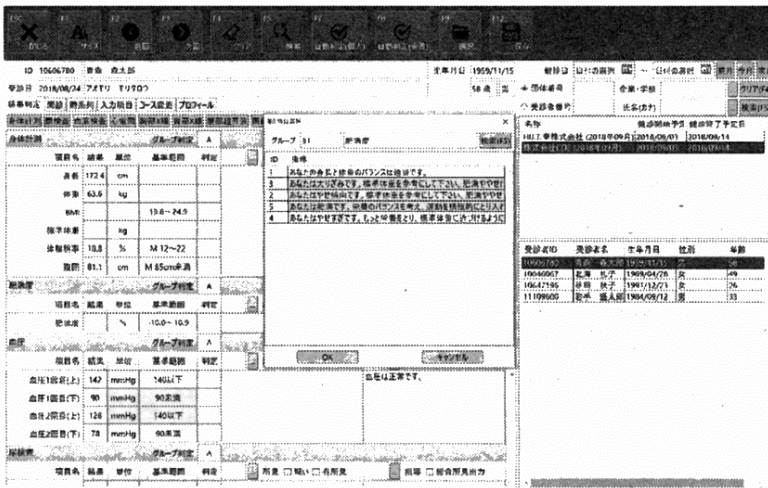
進捗チェック機能で、多人数でも効率的だ。健診結果と問診のデータから、検査結果を自動判定。使用者ごとに判定方法や判定基準を設定できるほか、問診票のデザインやレイアウトも、使用者に合わせて変更可能で汎用性が高い。さらに同社の医療画像管理システム「PrismPac

s」は運動や歩数などの画像を用いた所見を健診に加えられる。導入コストを安価に設定し、導入後の業務効率化を実現することで、人件費削減も期待できる。年内には、AIと運動させる予定で、ディープラーニング機能を検査結果や見間違いの減少などに活用していくという。問い合わせは011(676)9192。

プリズム・メディカル

医療現場の業務支援ソフトウェア開発を手掛けるプリズム・メディカルは、導入費用を抑え、ユーザーの意見を取り入れ、実践に即した健診システムを提案している。健診スタッフの業務負担軽減を目的に開発された同システムは、入力的大部分を自動化。受診者リストや血液データは

エクセルデータで取り込め、1件ずつ入力する必要がなくなる。企業健診の際には、全員分の問診票を一括で画面印刷ができ、宛名シールの印刷も可能となっている。健診当日は、問診表のバーコード読み取りだけで、容易に本人確認でき、計測した数値はその場で入力可能。健診者ごとの



検査結果も内容までカスタマイズできる